

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」		
実態	成果	課題
	◇「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童は9割を超えている。また、話し合いを通じて「自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりできている」と強く実感している児童の割合は、全国平均より約9ポイント高い。 ◇道徳の授業で「自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動」にとってもよく取り組んでいると回答した児童は全国平均よりも20ポイント以上高い。 ◇授業でICT機器を活用する場面が多く、「友達と考えを共有しやすくなる」「発表スライドを作成できる」と答えた割合が、全国平均よりも高い。	◇児童アンケートの結果から、算数の学習が「実生活に活用できている」と強く実感している児童の割合は、全国平均よりも20ポイント低い。 ◇低学年での学習習慣の定着や、高学年において自分に必要な学習を考えて取り組む「学びの自律」を家庭生活まで広げていくことが必要である。 ◇児童アンケートで「自分が必要とされていると感じるか」という問いに対し、低学年の約8割、高学年の約6割が肯定的な回答をしている一方、否定的な回答がそれぞれ約1割ある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題		
◇全国学習状況調査の結果から、「先生は自分の良いところを認めてくれている」との肯定回答が9割を超えており、教師との信頼関係に基づいた安心感の高いレベルにある。児童アンケートでも、多くの児童が「先生方は安心して学習できるよう支援してくれている」と回答している。 ◇自己有用感に個人差があり、全ての子どもが「自分は集団に必要不可欠だ」と実感できるような、役割と出番の創出が重要となる。		

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分で考えて判断し、たくましく学びに向かうこと

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	(1) 研究の重点「児童が自身の思いや考えを大切に学び進める授業改善」に基づき、教職員が互いの授業案や授業自体の交流する機会を設定する。 (2) 単元内に、単元の学習課題の解決に向けて、子ども自ら自分の学習の見通しを立てたり、探究の方法を検討したりする場を意図的に位置付ける。	①自主的な学級活動の充実 →児童が主体となり、 <u>自分たちで学級内の課題解決に向かう学級会の実施</u> ②児童会活動の充実 →書記局を中心に、子どもたちの「～したい」を実現する企画の実施
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇校内で策定したクロームブックの使い方ガイドラインを全校で共通理解としてもち、適切な活用の枠組みの中で「主体的な判断」を促す。自己管理能力を向上させることが、質の高い学びへと繋がる。 ◇個々の考えをタブレット上で可視化し、即時に全体やグループで比較・検討する活動を継続することで、他者の意見を参考に自分の考えを見直す力がさらに高まる。		

<本プログラムの実行に向けて>

